

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



■ 中長期展望

2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってからは107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからのドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会へ

ドル/円相場のトレード戦略

の挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものとどまるとの観測が出ると、ドルは113円台を回復する動きとなりました。

年末に向けては、9月FOMCで米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が実現される可能性が高まればドルの上昇基調継続が期待され、これまで続いた110円～115円の取引レンジが上方修正される動きとなるでしょう。

115円をクリアの上抜くと116円半ばが視野に入ってきますが、115円水準をクリア上抜けない場合は、110円～115円のレンジ相場継続がメインシナリオとなってしまうでしょう。

■短期展望

先週は、週初112円台でスタートし112円71銭の高値を付けたものの、戻りの上値の重さが確認されると、日米双方の祝日で薄商いのなか111円07銭と9月18日以来となる安値まで下落しました。

このドル下落は、連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨で来年以降の利上げに対する見方がやや後退したことに起因するとの指摘もありました。

今週は、米議会上院での税制改革法案審議が注目されますが、年内成立への不透明感が高まっており、ドルの上値を抑える要因となりそうです。

今年9月の安値107円32銭から11月の高値114円74銭の半値戻しである111円水準が下値抵抗として機能しているため111円～113円でのレンジ取引がメインシナリオとなりますが、111円を割り込んだ場合は110円を試す動きとなる可能性が高まることが予想されます。